

『百人一首』 中村素堂先生の仮名散らし書きの魅力 (三)

名にし負はば 逢坂山のさねかずら 人に知られでくるよしもがな

三條右大臣

〈歌意〉

「恋人に逢って寝るといふ名を持っている逢坂山のさねかずらのつるをたぐるように、人に知られずに逢いに行く方法があればいいなあ。」

この歌は『後撰集』(恋・七〇一番)に出ています。
○さねかずら…多年生の蔓つる草。

(三條右大臣)

藤原定方。(八七三〜九三二)年、六〇歳。

〈字母〉

名ニし於者、あふさ可山農
さ柅可つ良

人尔志られてく類よし裳

可奈

一行の中に効果的に連綿を使い、上三句と、下二句を対比するように書かれています。

(青藍)

中村素堂先生の書

大島香菊様提供